

あかし

プランニング・デザイン・総合印刷・オンデマンドデジタル印刷・可変データ印刷
 大判ポスター・出力・データベース・PDF高速データ変換・CD-ROM制作・
 3D・CGアニメーション企画・制作



半田中央印刷株式会社
 〒475-0032 半田市潮干町1番地の21
 TEL (0569) 29-2525 (代) FAX (0569) 29-4500
 E-mail: main@handa-cp.co.jp http://www.handa-cp.co.jp

わが町、わが店、この道一筋。出会いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ http://www.akai-shinbunten.net <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861 企画・制作：株式会社 新聞ビル

元気でできる“ことばたち” (129)

村上信夫 (アナウンサー)

■村上信夫プロフィール
 NHK エグゼクティブアナウンサー
 1953年、京都生まれ。
 明治学院大学卒業後、
 1977年、NHK入局。
 富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。
 現在は、『ラジオビタミン』担当。(ラジオ
 第一 8:30~11:50)
 これまで、『おはよう日本』『ニュース7』
 『育児カレンダー』などを担当。
 教育や育児に関する問題に関心を持ち
 続け、横浜市で父親たちの社会活動グ
 ループ『おやじの腕まくり』を結成。
 趣味は、将棋。
 著書に『元気でできることばたち!』(近
 代文芸社)
 『おやじの腕まくり』(JULA出版局)『いの
 ちの対話(共著)』(集英社)『いのちと
 ユーモア(共著)』(集英社)



ら、車の中、ベッドの脇に常に『論語』を置いて、繰り返し読んでいます。

吾、十有五にして学に志す
 10歳で、社長になる

で入ったカフェは、様々な国籍の人たちが陽気にダンスをし、酒を飲み語らう、温かな空間だった。「多くの人が、語らえ、安らげる空間を提供することこそ、自分のすべきことだと悟った。」
 大学卒業後、半年間、経理会社に就職して、財務に関することを勉強した。外食産業を学ぶため、高級クラブ

己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ
 サービス業で最も大切なことは、「怒」。すなわち、人を思いやる心だ。自分がしてもらいたいことを人にする。してほしくないことはしない。介護事業にも、この考えに基づいて取り組んでいる。

世の中の人々から「ありがとう」を集める仕事をし、自分が命を全うするとき、自分自身に「ありがとう」が言えるような生き方をしたいと考えている。

夢に日付を入れよう

ワタミ社長 渡邊美樹さん

これほどまで、自分の考えを信じ切り、前向きな生き方に徹することが出来る人には、会ったことがなかった。その人は、ワタミ株式会社代表取締役社長の渡邊美樹さん。外食、宅配、介護、農業、環境などの様々な分野にビジネスチャンスを広げている。学校教育にも取り組み、ビジネスだけでなく、人生哲学、生き方を問う若者のリーダー的存在でもある。今年50歳になるが、いまだ青年の雰囲気漂わせている。

と決めていた。いわば「経営に志した」わけだ。父は、CM制作会社を営み、恵まれた家庭だった。しかし、渡邊さんが10歳の時、父の会社が清算を余儀なくされた。その半年前には、母が死去した。悲しみと、悔しさの中で、渡邊少年は死のうとさえ思った。だが思案を重ねるうち、「社長になって父さんの敵(かたき)を取る!」と決意した。

でボーイの見習もした。起業資金をつくるために、大手運送会社で、1年身を粉にして働き、300万円を貯めた。「夢に日付を入れよう」というのが渡

「介護付有料老人ホーム」の運営をはじめ、多岐にわたる介護サービスを展開している。「ワタミのホームに親を入居させたいと思う子は親孝行だと言われるホームにしたい」と考えている。外食チェーンのノウハウを生かして、すべての方に満足してもらえる食事を提供するよう努力している。有機栽培農場から届く新鮮な野菜が食卓に並ぶ。「美味しく、楽しく、食べやすく、飲みやすく」をモットーに、個人の好みに合わせての味付けもする。日に日に元気になっていけるホームを目指している。さらに、定年退職したサラリーマンが年金で入れるような料金設定にしている。

渡邊さんが経営する外食チェーンは、合わせて600店舗ほどある。渡邊さんに会う前に、そのうちの1店舗で食事をした。出迎えた店員の腰を90度に折るおじぎに感心した。腹の底から声が出ていた。営業時間外でも予約を受け付けてくれた。メニューの写真より実物が良いという嬉しい裏切りもあった。渡邊社長のホスピタリティかくあるべしという思いが行き届いている。

社長になるには、社会を知ることだと、読書に勤しんだ。いわば「学に志した」。高校時代も、図書館にこもっていた。明治大学商学部に入り、6大

朝(あした)に道を聞かば、夕べに死すも可なり
 渡邊さんの人生設計では、80歳で死ぬことになっている。母からもらった命、一日一生の思いでいる。だから、この孔子の言葉が身に染みるのである。

2500年以上前に語られた孔子の言葉が、国を超えて、時を越えて、自然な形で私たちに問いかけてくる。自分の人生とオーバーラップさせなが

人生の転機となったのが、大学4年の時の北半球放浪の旅。ニューヨーク



俳画/イネ・セイミ

村上信夫 著
「ありがとう」
 言えなかった
 大切な人へ
 世界でたった一人の
 大切な人へ

好評発売中

フルート奏者として活躍中。俳画家。
 絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

ところ 常滑屋
 とき 月二回 第二・第三金曜日
 午後一時~三時
 会費 一回 二二五〇円(三ヶ月分前納制)
 問合せ ☎〇五六九(三五〇四七〇)

フルート奏者
イネ・セイミ
 一音一音
 いとおしむように
 奏でる音色
 貴方に幸せを
 届けます

コンサート依頼はこちらへ
 ☎0563(32)0583
 (セイミオフィス)

慈愛の人・良寛 (49)

杉本武之

同時代の人たち(その2)

前回に引き続き、立川昭二著『江戸人の生と死』の中で取り扱われている魅力的な人々を紹介しよう。

まず、「瘦蛙まけるな」一茶これにあり。など、親しみやすい俳句を数多く作った俳人・小林一茶(1763～1827)。(写真参照)

『蟬しぐれ』橋ものがたり』といった、豊かな情感を盛り込んだ秀れた時代小説をたくさん書いた藤沢周平は、51歳の昭和53年に長編『茶』を出版しました。「あ」とがきの中で、作者の藤沢周平はこう書きました。「一茶という俳人は、不思議な魅力を持つひとである。一度一茶の句を読むと、そのなかの何ほどこは、強く心をとらえてきて記憶に残る。しかも、ある親密な感情といったものと一緒に残る。わかれは芭蕉の句や無村の句も記憶に残す。それは句がすぐれ

ているからである。一茶の句の残り方は、そういう意味と少し異なっていて、親近感のよくなるものもある。それはなぜかといえ、一茶はわかれわかれにもごくわかりやすい言葉で、句を作っているからだろうと思う。ちょうど啄木の短歌がわかりやすいように、一茶の句はわかりやすい。」

一茶は、宝暦13年(1763)5月5日信濃国柏原の農家の長男として生まれた。本名は小林弥太郎。小林家は代々の農民で、父の弥五兵衛は中農の本百姓であった。3歳の時、母親が死亡。8歳の時、父が再婚。2年後に弟が誕生。14歳の秋、祖母が死去。翌年、一茶は江戸に奉公に出された。

後に父・弥五兵衛は後妻の意見に従って、わが子を奉公に出したことを後悔して、「年齒もゆかぬ瘦骨に荒奉公させ」と語った。

一茶は、惨めで孤独だった少年時代を回顧して、次のように書いた。「大かたの人交りもせずして、うらの島に木・萱など積たる片陰にがまりて、長の日をくらしぬ。我が身ながら哀れなりけり」(『おらが春』)

少年時代を回顧して、次のように書いた。「大かたの人交りもせずして、うらの島に木・萱など積たる片陰にがまりて、長の日をくらしぬ。我が身ながら哀れなりけり」(『おらが春』)

江戸に出てからの10年間に、故郷の柏原に永住する覚悟を決めていた一茶は、壮絶な遺産争いをした異母弟と田畑を折半し、家も壁で半分に分け住むことになった。翌年、52歳にして初めて妻を娶った。

遺産相続の難題が解決する2年前の文化8年(1881)6月16日のことである。上総(千葉県)に滞在中に、大切な奥歯が抜け落ちた。この時、一茶、49歳の出来事の顛末を、「茶は無念やる方ない思いを込めてこう書いた。

「十六日の昼ごろ、きせるの中、塞がりてければ、麦わらのやうに竹を削りて、差し入れ置きたりけるに、中に詰まりて、ふつに(全く)抜けず。竹の先わづかに爪のかかる程なれば、すべやうもなく、欠け残りたる奥歯にて、しかと唾へて引きたりけるに、竹は抜けずして、歯は、めりめりと抜け落ちぬ。哀れ、吾が



一茶 (村松春甫画)

日記である。瀕死の老父の枕元での腹違いの弟との遺産をめぐる骨肉の争いが赤裸々に描かれている。長い遺産分配交渉の結果、弟と和解し、父の遺産の半分と賠償金を受け取ったのは、12年後の51歳の時だった。その前年

「故郷の柏原に永住する覚悟を決めていた一茶は、壮絶な遺産争いをした異母弟と田畑を折半し、家も壁で半分に分け住むことになった。翌年、52歳にして初めて妻を娶った。」

文政10年(1827)6月、柏原の大火で一茶の家も類焼した。仕方がないので、焼け残った土蔵で暮らす。その土蔵の中で、11月19日、急に気持ちが悪くなったかと思ふ間もなく、「南無阿彌陀仏」と唱えて死去。65年の薄倅の生涯であったが、最期は、日ごろ「ぼつくりと死ぬが上手な仏かな」と詠んでいたように、願いどおりの大往生だった。家の普請にかかっていたが、家の完成よりも一足早くやってきた死であった。

一茶の墓は、野尻湖の下車駅・黒姫駅から歩いてすぐの近隣の明寺の墓地にある。小さな古い墓石で、その下に小林一族の人たち、祖父、父母、継母、異母弟、妻たち、幼くして死んだ子どもたちと混じって、一茶の骨も埋められている。

次は、私が最も敬愛している人間の一人・良寛(1758～1831)。

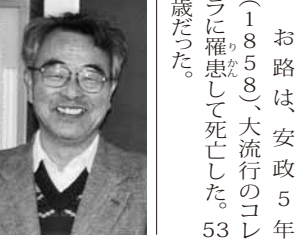
良寛については、ただ一つ、「自警の文」だけを引用しすぎた。越後に帰国した良寛は、46歳の時、三島郡野積(現・寺泊町)の西生寺に仮住いした。この寺は、弘智法印の即身(ミイラ)がある寺として知られている。弘智法印は、12世紀はじめに、衆生救済のために断食してミイラになった。良寛は強く心を打たれ、「弘智法印像に題す」という詩を作るとともに、「自警の文」を書く。何度読んでも感動する文だ。

「もし邪見の人・無義の人・愚痴の人・暗鈍の人・醜陋の人・重悪の人・長病の人・孤獨の人・不遇の人・六根不具の人を見る者は、当にこの念を成すべし。何を以てか之を救護せん。例え救護する能はずとも、仮に驕慢の心・高是の心・嘲弄の心・軽賤の心・厭患の心を起こすべからず。急ぎ悲愍・憐れみの心を生ずべし。悲愍の心、もし起らざる者は、慚愧(恥じる)の心を生じて、深く我が身を恨むべし。我はこれ道を去ること太だ遠き所以の者、何ぞ先聖(弘智法印)を指すに辜(せま)負(せま)背(せま)せんや。故に、いささか之を以て自ら警むと云ふ。沙門良寛」

「江戸人の生と死」の著者・立川昭二は、こう解説しています。「ここで何より目をみはるのは、救護すべき人の中に、暗愚な人・重悪の人・長病の人・不遇の人等とともに、はつきりと六根(眼・耳・鼻・舌・身・意)不具の人つまり身体障害者をあげていることであり、そしてこれらの人々を蔑視・差別してはならない、と語気激しく宣言していることである。おそらく身障者をこれほど明確に意識して発せられた言説は明治以前に見当たらない」

最後は、滝沢馬琴の息子の嫁になった滝沢みち(1805～1858)。

みち(お路)は、紀州の老家に仕える医師の娘。22歳の時、滝沢馬琴の息子の妻になる。夫は38歳で肺結核のため死亡(お路30歳)。舅の馬琴は失明後、お路に筆記させて、超大作『南総里見八犬伝』を完成。7年後、馬琴は胸痛喘息のため82歳で死去(お路43歳)。長男の太郎は、小さい時から病弱だった。父親の馬琴が死ぬ少し前から、左足がひどく痛み始め、内踝が腫れてきた。病名は壞疽。



お路 (安政5年(1858)、大流行のコレラに罹りて死亡した。53歳だった。)

お路は、安政5年(1858)、大流行のコレラに罹りて死亡した。53歳だった。

この指とまれ (160) 氏原朝信

鬼(1)(2)(3)

前回「鬼(1)(2)」の十字鬼を読んでくれたバンク在住のKさんからeメールをもらったものを、紹介します。「十字路」といって私たちよく遊んだことを思い出しました。最初に大きな四角を書いてから十字し、片足とび」というルールだったなあ。と懐かしかったです。」

ねことねずみ

もって少人数の十人くらいでやるおもしろい。「ねことねずみ」を一人ずつきめる。(きめ方はジャンケンでもよい)

① 他の子は手をつないで座る。② 輪をつくらせて座る。③ ねこは外側に立ち、ねずみは内側に入る。④ 「はじめ」の合図でねこはねずみを追いかける。⑤ 他の子たちは、立ったり座ったりして、ねこの

じゃまをして、ねずみを助ける。⑥ ねずみを通すときには立つて通りやすくする。⑦ ねこがねずみをつかまえたなら、ねこはねずみになり、ねずみは輪の中に入れてもらう。⑧ 今までねこだった子が輪の子を一人ずつ指を差しながら「ねこになるのはだれか、かみさまのいうとおり」と呪文を言いつつ最後の「り」になった子がねこになる。

ちがあって好きでした。そして、みんなで体育館の時間になる。三〇人くらいあったのでしようか、鬼(ねこ)に追いつけられながら逃げる私(ねずみ)をさつと立つて輪の中に入れてくれます。ねこが来れば、さつと座って助けてくれます。でも、反対側では誰かが立ってネコを入れるという意地悪をされながら、逃げるのです。そこに駆け引きがあつておもしろかったのです。

ねことねずみ

もって少人数の十人くらいでやるおもしろい。「ねことねずみ」を一人ずつきめる。(きめ方はジャンケンでもよい)

長澤晶子のSPEED★COOKING!

フライパンで焼く インド風手づくりナン

親子で夏休みにフライパンで焼けるナンをつくってみよう!!

材料

(3枚分)
強力粉…100g、薄力粉…100g
ドライースト…小さじ1
ベーキングパウダー…小さじ1/2
塩…小さじ1/2強
サラダ油…小さじ1
水…1/2カップ強

作り方

- 水以外の材料をボールに入れて耳たぶくらいになるよう水を加えてこねる。
- ①を乾燥しないようラップをして1時間休ませる。
- ②を3～6等分(平らにしてフライパンに置いて焼ける大きさに)に包丁で切り、めん棒もしくは手で平らにする。
- ←涙型にすると本物にちかい!!
- 厚み5～6mmくらいに平らにできたら火をつけてフライパンをあたためる。
- フライパンに油を薄く敷き、弱火でゆっくり焼く。
- ⑥が焼き目がつき、生地が⑥でなければOK。
- ご家庭でつくったカレー、もしくはレトルトカレーをあたたためて、ナンをちぎってカレーをつけて食べる。完成!!

我家では残ったら、1枚ずつラップして冷凍保存。ピザソースとチーズをのせてレンジでチンすればおやつに早替りです。

常滑市民会館

常滑市民会館 第二十八回 フォーミュラサッカー大会(午後2時～4時)

愛知県吹奏楽コンクール 中学校の部 知多地区大会(二十一日午前四時～午後五時)

第三回常滑市カラオケ大会(二十四日午前九時半～午後四時)

学校給食調理員衛生講習会(二十一日午前八時～午後一時)

常滑市立図書館

山形生会館(三日)

クラブサファティ(七日～八日)

常滑市立図書館(二十一日～二十二日)

常滑市民会館

第二回企画展「山形生会館」(五日～十一日)

第二回企画展「山形生会館」(五日～十一日)

常滑市立図書館

全日本小中学校卓球大会(四日～五日)

常滑市立図書館

常滑市立図書館

常滑市立図書館

常滑市立図書館

大阪屋葬祭

誠意をこめて安心のお手洗い
年中無休・24時間体制

常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール

TEL:0569-35-4949 (代表)

FAX 35-4911

命哲館

各種整体術オステオパシー

受付時間
午前7:00～12:00 午後2:00～7:00 休日 第2・4日曜日
予約制 電話予約してからご来店下さい

TEL:0569-35-3207

常滑市原松町2丁目191-2 (常滑幼稚園うら)

知多の新鮮たまご 発酵ケイフン

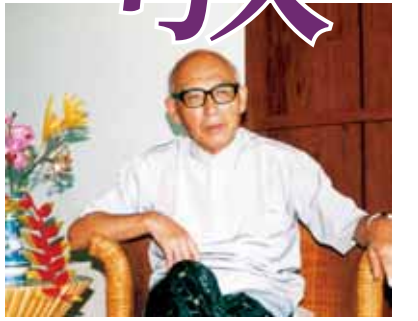
(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ峰380
TEL0569-73-6341

愛知県立大学名誉教授

山田正敏

『バリ島 行ったり来たり』(19)



《伝統的な

バリ島の村に住む》

—— 鬱病をも癒した、

村の生活環境① ——

地球上の生き物は、多かれ少なかれ、その生きている環境の影響を受けて生きている「動物」であり、「植物」であることは言うまでもありません。

その中で、「人間」と言う動物は、とりわけ「環境の動物」とまで言われてきました。それは、人間という動物が、環境と、より密接に関わって生きて来たからでしょう。

人間という動物は、ただ単に環境から影響を受けるだけでなく、環境に働きかけ、環境を造り変えたり、自分も他の人間の環境にもなるという「環境とのダイナミックな関わり」の中で生活して来たからでしょう。

したがって、人間を取り巻く「環境」は、相互に密接に関わりながら、「自然環境」と「社会（人間）環境」に大別されてきました。

《バリ島

その地理と自然環境》

バリ島は、世界最大の群島国家、インドネシア共和国に属する約一万三千余りの、島の一つです。

インドネシアという名称は、ギリシア語の二つの単語「インドス」（東

インド）と「ネソス」（島々）からできた国名です。従って、インドネシアとは、文字通りに訳すと「東インド諸島」となります。

「アジア」と「オーストラリア」の二つの大陸にはさまれて、東西五千二〇〇キロ、南北千七六〇キロにわたって赤道近辺に点在する、この列島国家の地形を名づけて「赤道にかけられたネックレス」と表現した地理学者がいましたが、その「命名の美学」には納得させられます。

その列島の中央に位置するバリ島は、南北八六キロ、東西一四〇キロの赤道直下の南半球の熱帯の小島です。

その面積は五千六二二平方キロと、ほぼ日本の愛知県ほどの広さしかないが、島のやゝ北寄り中央には、バリ島の最高峰であり、バリ島民が「母なる山」と尊敬するアグン山（二五六七米）をはじめとして、私たちが滞在するT村を裾野にいだく、第二の高峰バトゥカウ山（二二七一米）など、二千米級の美しい休火山の山々が立ち並んでいる。

西側のジャワ島とのあいだの海峡は、幅にして三キロ弱。深さもせいぜい六〇米にすぎず、氷河期時代にはバリ島とは地続であったとされています。

いっぽう東側のロンボク島のあいだは三五キロほど離れ、深さは千メートル近く、水の流れも早い。こ

のロンボク海峡には、アジア的な動物とオーストラリア的な動物との分布の境を示す「ウォーレスライン」が通っている。「ウォーレス」とは、この境を発見した英国の博物学者の名前です。この海峡は、またの名を「ウォーレス海溝（みぞ）」とも呼ぶと、旧制中学時代に教わったことを思い出す。

このように、バリ島は、地理的にも、生態系から言っても、アジアの最も東南端に位置する島ということになります。

バリ島を空から眺めると「ちよろど扇を開いたような形をしている」と、観光ガイドブックには、よく書かれています。実際、地図を眺めると、そのような地形をしていると言えなくもありません。

中央の高山は、扇のへりにあたる島の北岸に添うように、北にふくらみながら東西に並び、その南側山麓に広い平野をつくっています。山脈の北側、島の北海岸沿いには狭い平野がつづいている。その中心都市シガラジャは、一八〇十九世紀のオランダ植民地時代のバリ島の首都。欧米との貿易の拠点。一九五三年にテンパサルに首都機能が移るまでは、政治、経済、文化、貿易の中心地。現在もその時代の名残として、二十世紀初頭のアルデコ・スタイルの幾何学模様の装飾をつけた

街並のみならず、島内唯一の国立大学教育学部と大学院が、教員と研究者の養成に、連綿として携わっている。古い歴史の街である。余談ながら、この大学院の卒業生は高校教師が、管理人の息子の恋人として、しばしば、わが家を訪れる。「狭い島の、身近かな話」である。

いっぽう島の東部は、山が海岸線までせまるところが多く、わずかな平坦部が散在しているのみである。

また島の西部は、そのほとんどが森林におおわれた最高一〇〇〇米前後の丘陵地でしめられ、国立公園に指定されている。

私は、一度もこの地方に足を踏み入れたことがない。ガイドブックによれば、この西部地方の見どころは「手つかずの自然が溢れる 俗化していないところが魅力——」と、謳っている。これが、ガイドブックの要である「見どころ」の記述になっているところが、妙に私は気に入った。本当に、観光ブーム最中のバリ島で、「バリ島らしい観光資源」として、「手つかずの、俗化しない「バリ島の自然」を《見どころ》に挙げて

いるその視点が魅せられたのだろう。しかし、人間の暮らしと、直接にしろ、間接にしろかゝわらない自然というものは、人間にとつての「自然環境」にならないのではないかと、も自問した。

いづれにしろ、バリ島には手つかずの自然も含めて「自然が溢れている」ことは事実である。

《バリ島暮らしで、

体感している

田舎の自然環境》

私は、毎朝五時（時差マイナスイ時間）にはベッドを離れ、家中のカーテンを開け、網戸一枚にする。まず

北側の窓から、バトゥカウ山から流れ下る空気を体一杯に吸い込む。この呼吸を二〜三回繰り返す。少しばかり「山の緑の味」がする。この空気を、私は勝手に「バリの一番搾りの空気」と呼んでいる。一日の活力の素を体内に取り込んだ思いになる。

次は屋外と室内の温度計をチェックする。屋外の気温は十八〜九度。室内二十二〜三度。スッキリして、スガスガしい。室内は、日中でも二十五度を上回らない。湿度は、室内常時七〜八〇%。名古屋の冬に踵を荒らす私などは、この湿度でスベスベになる。

管理人の家の雄鶏が、関の声をあげる。遠くの村々からも聞こえてくる。空気が澄み渡っているからだろう。

懐かしい子ども時代の田舎の風景が一挙に蘇るバリ島の田舎の朝です。

バリ島の気候は、どの出版物を読んでも異口同音に「熱帯性湿潤気候」（高温多湿）と書かれている。間違いないが、この村の朝の気候はどういうことだろう。それは土地の標高によるものだ——と実感している。

快適な気候の村（標高四四八米）である。



<野鳥も屋内に遊ぶ>

童話

たなばたさま(下)

愛知淑徳大学教授

堀尾幸平

(四)

その次の年のたなばたさまのことでした。ぼくが、にしき川の桜の木の下で、陽子ちゃんに会ってから、一年がたっていました。

たなばたさまの日には、毎年子どもも大人もみんな思い思いの願いごとを書いてタンザクにするのです。

僕は筆を持つと、自分の願いを母に見られないように、こっそりとタンザクに書きました。

陽子ちゃんと 結婚できますように

こういち

書いてしまったから、ぼくは顔が赤くなり胸がどきどきしました。

ぼくはとても悪いことをしたような気持ちになつて、すぐにタンザクを破つてしまいました。そこに父が帰ってきました。

「たくさんの願いごとを、まず全部書き出して、最後に一番大切なものを二つに決めなさい」

教師先生である父は、先生らしい口調で言いました。

ぼくは、うなずいて、父の前でもう一枚大きく書きました。

一生懸命 勉強します。命をかけて

こういち

父は、タンザクを手にとつて笑いました。

『命をかけて』は、大げさだな。だが、それぐらいの気持ちが大切だよ。子どもの頃にしっかりと勉強しておかないと大人になつてから後悔するからな」

父は、また教室で言うような調子で言う、ぼくの頭をなでました。

それから、父は自分の俳句をタンザクに大きく書きました。

たなばたや 願ひはすべて かなふもの

純平

「願いはただ願っているだけではだめでね。願いはかなうもの、と信じて、努力することが大切なんだよ」

母が「ほら、ごらんなさい」という顔でぼくを見て笑いました。

夕方になると、庭に設けた七夕祭壇に、そうめん、トウモロコシ、ナス、スイカ、モモ、それにぼくの大好物の巻き寿司などが供えられました。

(五)

その夜、ぼくは、にしき川の川原を陽子ちゃんと二人で歩いていました。

不思議なことに、どうしてそうだったのか今はどうしても思い出せません。

陽子ちゃんは、淡い水色に黄色い花もよのゆかた姿で、まるでおりひめさまが空からおりてきたようでした。その時、川原に、涼しい風がさつと吹き抜けました。陽子ちゃんがふいにつまずいてころびそうになり、ぼくは思わず陽子ちゃんを支え、そのまま肩を貸して歩きました。

だれかに見つかったら「こういちと陽子は夫婦になったとウワサされるのではないかと心配していたことを覚えています。

にしき川の堤防や川原には、空の星が地上でもかがやいているかのように、黄色い月見草がいつぱい咲いていました。

「こういちくん、川の中に入つてみましょうよ」

陽子ちゃんは、そう言うとうかたのすそ

を少しはしょつて、川の中に入りました。星の光をうつした水面にゆらゆらと、さざなみが広がりました。

「うわあ、気持ちいいわ。こういちくんもお入りなさいな」

ぼくは、陽子ちゃんと並んで足を川に入れました。冷たくてとてもいい気持ちでした。

ぼくたちは、川の中の岩に腰かけて足をパシャパシャ、パシャパシャさせました。

水しぶきが飛び、水の音が大きく聞こえました。まわりにはだれもいません。

陽子ちゃんとぼくの二人だけです。

「きれいなね…」

陽子ちゃんが、空を見上げてうっとりした声で言いました。夜空にかかる天の川は、銀河のなかでひととき美しく、ちかちかとまたたいていました。

ぼくはその時、野外学習で高原に泊まつた夜、保健室の真子先生が話してくれたことを思い出しました。

「天の川を仰ぎながらカップルでじゅもんをとなると、二人は将来結ばれるという言い伝えがあるのよ」

女の子たちからキャットとうれしそうに声が上がりました。

「先生、どんなじゅもんですか」

だれかが質問しましたが、先生は笑つてすぐには教えてくれませんでした。

「今、教えると、校長先生に叱られるからできないわ。でも、大人になったら教えてあげる」

「先生、いま、教えてください！」

みんなが聞きましたが、結局、先生は答えてくれませんでした。

ぼくは今でも、あの時、教えてもらえばよかったと思つています。

真子先生は、その夏、突然亡くなつてしまいました。真子先生はお星さまになつてしまったのです。

「真子せんせい…」

ぼくは、広い星空を見上げながら、真子先生のお星さまは、どれだろうかと考えました。

「こういちくん、天の川には水が流れてると思う？」

陽子ちゃんに聞かれて、ぼくは、はつとしました。

「川だから水が流れているにきまつてるさ」

「それなら泳げるわね。わたし、天の川で泳いでみたいわ」

陽子ちゃんは足をまたパシャパシャさせてはしゃいで言いました。

「陽子ちゃん、泳げるの？」

「わたし、ビッコだけど泳ぎは得意よ。クロールだってできるのよ」

「うわあ、すごいんだ。ぼくは平泳ぎと犬かきだけしかできないけど…」

「こういちくんも、すぐに上手になるわよ。こういちくんと一緒に泳ぎたいなあ」

「うん。泳ごうよ」

「ほんとよ。大きくなつたら絶対に宇宙へ行つて、天の川で泳ぎましょうね」

さつきまで笑つていた陽子ちゃんは、真剣な顔でぼくを見つめました。あの銀河のかなた、無数の星がきらめく天の川で陽子ちゃんと二人で泳ぐのです。ぼくは、願ひはきつとかなうと思ひました。

「そこにいるのはだれだ！」

突然、堤防の上で大人の声がひびきました。ぼくたちはびつくりして、とっさに川原の茂みに隠れました。

「隠れたつたためだ。出て来なさい！」

茂みからのぞくと、自転車のおまわりさんがこちらを見下ろしています。ぼくたちは、あきらめて茂みから出ました。

「なんだ、教頭先生とこのこういちくん。それに森下薬局の陽子ちゃんじゃないか。隠れるなんて何をしているんだね」

「ごめんなさい。わたしたち星を見ています」

ぼくたちは、ばれてしまったので、きまり悪い思いで、二人並んで大きく頭を下げました。

「こんな暗い川原に、男の子と女の子が二人だけにいるなんていけないよ。早く家に帰りなさい」

「はい。分かりました」

陽子ちゃんが、甘えた声で言つて大きく頭を下げると、おまわりさんはうなずいて自転車に乗つて行つてしまいました。

「おまわりさんもうやらしいことを想像してたのよ。大人つて、みんなそうなんだから。いやあね」

陽子ちゃんは舌をべろつと出すと、いたずらつぼく笑いました。

おまわりさんの自転車のあかりが、ちようちんのように揺れて遠くへ消えていつてしまつと、あたりはまた、静かな二人だけの闇となりました。川のせせらぎの音が急に大きくなつたようでした。

それから、陽子ちゃんは神妙な顔をして言いました。

「みんなが変な目で見るから、わたしたち一緒に遊ぶのは当分お休みにしましょうよ」

「お休みに？」

「ええ。わたしたち、大人になったら、いつでも好きなだけ、会えるもの」

「旅行にも行ける？天の川旅行——」

「もちろん、行けるわ。そして天の川で泳ぐのよ。二人で」

「そうか。では、しばらく会うのはお休みにしようか。残念だけど…」

「お休みにしましょう。でも、大人になったら、きつと天の川へ行きますよ」

ぼくたちは、月見草の中でげんまんをしました。

川原でおまわりさんに見つかったことは、ぼくたちの両方の家族に知られて、ぼくたちは、ぼくさんさん叱られました。

そして以後、二人だけで会うことは、できなくなつてしまいました。

ぼくたちは学校や家庭で、先生や親の言うことをよく聞く「いい子」の優等生でしたから、親や大人たちが心配するようなことは絶対にしませんでした。

(六)

それから、また一年がたち、ぼくは四年生、陽子ちゃんは六年生になりました。

その年のたなばたさまも、笹竹のタンザクや飾りもの等の準備で例年どおり町全体がうきうきしていました。

その日の夕ぐれ、ぼくは、にしき川の堤防を歩いていました。道の両側には月見草がいつぱい咲き乱れています。

その桜の木のままで来たとき、ぼくは、白いワンピースの陽子ちゃんにたまたま会いました。

久しぶりに会う陽子ちゃんは、見ちがえるほど大人びてみえました。身長もずいぶん高くなつたようでした。胸もふくらんでいます。ぼくは、あわてて目をそらしました。

陽子ちゃんは、「あつと声をあげて、ぼくを見て笑いました。」

大きな黒いひとみがキラキラしています。その時、ぼくは、去年、月見草いつぱいの川原で二人で天の川を見たことを思い出しました。

ぼくは、思いきつて言いました。

「今晚、この川原で一緒に天の川を見たいんだけど——」

「そうね。そして二人だけの、あの天の川旅行のこと、話し合ひましょうよ」

陽子ちゃんは、うれしそうにそう言うので、家の用事をすませてくるために、あわてて堤防を駆けて行きました。

遠ざかつて行く陽子ちゃんを包むように闇が広がり、星がひとつ、また、ひとつと、またたきはじめました。

(おわり)



(愛知淑徳大学文学部教授)

知多の動植物雑記(二五〇)

原 穰

「エー！何でこんなところにかたツムリか」と思ったのは、二か月前のこと。先々月の五月五、六、七日は三日連続の雨降り日。ふと目にした隣家のブロック塀と地面の境に出来た僅かな隙間に、長さ五・六ミリの細長いカタツムリが

十五、六匹もいる(写真) 姿形からすればナミコギセルだ。でも普通は林の中の木の幹の下の方にいるのに、なぜコンクリートの隙間に？じっくり眺めれば、殻から出てきた体の色は薄黄色。 ナミコギセルとは違うなと、部屋に入り陸貝の標本箱で見比べれば、ナミコギセルは左巻きなのに、今回のものは右巻きになっていた。 何なのか？早速、学生時代の同級生で陸貝専門の中根吉夫氏に送れば、「オカチヨウジガイの幼体です。昭和五十年代までは比較的多かったけど、除草剤な



初見のオカチヨウジガイ

と、部屋に入り陸貝の標本箱で見比べれば、ナミコギセルは左巻きなのに、今回のものは右巻きになっていた。 何なのか？早速、学生時代の同級生で陸貝専門の中根吉夫氏に送れば、「オカチヨウジガイの幼体です。昭和五十年代までは比較的多かったけど、除草剤な

町の考古学

弥生時代(百四十一) 奥川弘成

遺跡

弥生時代中期に海面が上昇したことが一つの要因となつて、生活の基盤が安定した標高の高い地へ集落の移動がありました。これにともない、低地に分散していた小集落が集合し、環濠で囲んだ拠点集落の形成が進んだと考えられます。それが濃尾平野などの大河流域周辺にあつた台地にみられる規模の大きな弥生時代中期の集落です。 海岸に近い自然地形を利用した農耕地も、海面の上昇によって大きな打撃を受けました。その結果、より内陸地の開墾が進んだと考えられます。 そして、低地での自然地形を利用した原始的な農耕地から、より人工的な灌漑施設を設けるなどした農耕技術の飛躍をもたらしきつかけとなりました。



弥生時代の高所性遺跡があつた丘陵地(武豊町富貴・中田遺跡)

台地に集落を移すには人が移動するだけでなく、そこに住まいや倉庫、溝を掘る土壌作業が伴います。海岸の平野は砂地であつたことから石製の道具で十分でしたが、台地では赤土や粘土、礫層が相手となり、二本の柱穴を空けるのに何十倍もの労力が必要となります。この効率の悪さが台地から人を遠ざける要因でした。 弥生時代中期のころ、知多半島では鉄器の導入が遅れていて石器が主流の道具でした。その中で威力を発揮したのが共同体による集団作業でした。 弥生時代中期の後半から後期になると、平野地や台地の集落が変わりな

る要因でした。 弥生時代中期のころ、知多半島では鉄器の導入が遅れていて石器が主流の道具でした。その中で威力を発揮したのが共同体による集団作業でした。 弥生時代中期の後半から後期になると、平野地や台地の集落が変わりな

る要因でした。 弥生時代中期のころ、知多半島では鉄器の導入が遅れていて石器が主流の道具でした。その中で威力を発揮したのが共同体による集団作業でした。 弥生時代中期の後半から後期になると、平野地や台地の集落が変わりな

る要因でした。 弥生時代中期のころ、知多半島では鉄器の導入が遅れていて石器が主流の道具でした。その中で威力を発揮したのが共同体による集団作業でした。 弥生時代中期の後半から後期になると、平野地や台地の集落が変わりな

る要因でした。 弥生時代中期のころ、知多半島では鉄器の導入が遅れていて石器が主流の道具でした。その中で威力を発揮したのが共同体による集団作業でした。 弥生時代中期の後半から後期になると、平野地や台地の集落が変わりな

る要因でした。 弥生時代中期のころ、知多半島では鉄器の導入が遅れていて石器が主流の道具でした。その中で威力を発揮したのが共同体による集団作業でした。 弥生時代中期の後半から後期になると、平野地や台地の集落が変わりな

どの影響で数が減り、今は稀産の種です。特徴は、殻口からの二層が半透明で、薄黄色の体が透けて見える。成体は殻長十ミほど、殻径は三・三ミほどで、巻き数は七で、返事を頂く。 早速この小さな貝の仲間の採集記録をと、標本箱で調べれば、知多半島内のナミコギセルは、内海・武豊町楠半田の乙川と雁宿公園。ホソオカチヨウジガイは武豊町多賀・六貫山・河和などで、今回のホソオカチヨウジガイは初見の陸貝。 ではもう一度見たい、と水道水を割れ目へかけて湿らせて出ると待たされたが、駄目。後日、雨の日に見れば、いた！やっばりナ！雨でなければ実感する。 六月九日、東海地方は梅雨入りとTV。そう言えば、以前、中日新聞半田支局の阿部記者の「うつつ」という梅雨と言つてないで、……陸にすむ巻き貝、いきいきしてるとの記事を思い出した。

ちよつとおじやまします 陶芸家 永柳光生さん 永柳さんはギヤラー煙のオナーでもあり、陶芸家でもある。 永柳さんは食べるため、生活をするために陶芸を始めたというが、永柳さんの作り出す作品は、その話しぶりからは想像しがたい心意気を感じられる。「それなりに使

出す作品は、その話しぶりからは想像しがたい心意気を感じられる。「それなりに使いやすくないとね」と、粉引の湯呑に冷茶を入れてくれた。自然の土から生まれるやさしい風合い、釉薬が醸し出すおもしろさが宿っている。永柳さんの作品をオーダーするファンは多いという。困った時に大好きな湯呑でお茶を飲み、器で食事をするなかで、喜びをたくさんの人に感じてもらえたらという、作り手思いにホッとさせるのだから。そして、その作品を気取ることなく、あたたか感じられる。 十年前のことだ。病気をしたことがきっかけで、お地蔵さんを描き始めた。奈良に出かけた際、薬師如来が降りてきて、「あなたはやっばり、物作りをしなさい」と。

夏の到来とともに、永柳さんを熱くさせているのが、体験型観光・交流施設の建設だ。ここでは、地域の人も含め、観光客に陶芸・そば打ち・シヤブ作り・農作業など都会にはない「田舎」感覚を体験できる場となれば、永柳さんの思いは膨らんでいる。 永柳さんは冗談が大好きで、お話をしても何だか、漫才をしているような気がならない人柄であった。 常滑市瀬木町1-3 営業時間 10:00~17:00 定休日 第1、3日曜日 (赤井 伸衣)

若竹俳壇 花菖蒲写生する人写す人 花菖蒲の裾に重たれし梅雨 参道の頭上すれすれ若風 山一つ揺るる吹ける青嵐 春風はやうな主治医と長談 天辺はゆるらぬつもり花 更衣古着引取りセルのことも 揚羽蝶対のむくろの叢に 湖の見え隠れに麦の秋 森の中の鳥制するやほととぎす 朱の魅力さくろく一点草むらに 遠山の夏敷して済州島 カリヨンのお屋を告げる菖蒲園 程好きに頭切られて今年竹 吟じたる歌え若葉風にのり 花菖蒲影に小さき魚の生れ 蓮の花ほのかに動く池の鯉 その昔母と行きしや菖蒲園 遠目より黄色あざや未央柳 街路樹の枝先ゆるさ夏吹柳 溜池の縁に今年もあやめ咲く 誰を待ち姿美し花菖蒲 香りを待たふれに今朝の庭 雨降って青葉勢い増しにけり 霧ヶ峰れんげつじの咲き乱れ ぬ茶茂り畑一面に茶の香り 勉強中ばたをさがし夜釣かな 母の日も無償の愛が我包む 散歩道猫も木陰で夢うつつ ひとりふく青葉の先の梅雨の玉

若竹俳壇 花菖蒲写生する人写す人 花菖蒲の裾に重たれし梅雨 参道の頭上すれすれ若風 山一つ揺るる吹ける青嵐 春風はやうな主治医と長談 天辺はゆるらぬつもり花 更衣古着引取りセルのことも 揚羽蝶対のむくろの叢に 湖の見え隠れに麦の秋 森の中の鳥制するやほととぎす 朱の魅力さくろく一点草むらに 遠山の夏敷して済州島 カリヨンのお屋を告げる菖蒲園 程好きに頭切られて今年竹 吟じたる歌え若葉風にのり 花菖蒲影に小さき魚の生れ 蓮の花ほのかに動く池の鯉 その昔母と行きしや菖蒲園 遠目より黄色あざや未央柳 街路樹の枝先ゆるさ夏吹柳 溜池の縁に今年もあやめ咲く 誰を待ち姿美し花菖蒲 香りを待たふれに今朝の庭 雨降って青葉勢い増しにけり 霧ヶ峰れんげつじの咲き乱れ ぬ茶茂り畑一面に茶の香り 勉強中ばたをさがし夜釣かな 母の日も無償の愛が我包む 散歩道猫も木陰で夢うつつ ひとりふく青葉の先の梅雨の玉

若竹俳壇 花菖蒲写生する人写す人 花菖蒲の裾に重たれし梅雨 参道の頭上すれすれ若風 山一つ揺るる吹ける青嵐 春風はやうな主治医と長談 天辺はゆるらぬつもり花 更衣古着引取りセルのことも 揚羽蝶対のむくろの叢に 湖の見え隠れに麦の秋 森の中の鳥制するやほととぎす 朱の魅力さくろく一点草むらに 遠山の夏敷して済州島 カリヨンのお屋を告げる菖蒲園 程好きに頭切られて今年竹 吟じたる歌え若葉風にのり 花菖蒲影に小さき魚の生れ 蓮の花ほのかに動く池の鯉 その昔母と行きしや菖蒲園 遠目より黄色あざや未央柳 街路樹の枝先ゆるさ夏吹柳 溜池の縁に今年もあやめ咲く 誰を待ち姿美し花菖蒲 香りを待たふれに今朝の庭 雨降って青葉勢い増しにけり 霧ヶ峰れんげつじの咲き乱れ ぬ茶茂り畑一面に茶の香り 勉強中ばたをさがし夜釣かな 母の日も無償の愛が我包む 散歩道猫も木陰で夢うつつ ひとりふく青葉の先の梅雨の玉

若竹俳壇 花菖蒲写生する人写す人 花菖蒲の裾に重たれし梅雨 参道の頭上すれすれ若風 山一つ揺るる吹ける青嵐 春風はやうな主治医と長談 天辺はゆるらぬつもり花 更衣古着引取りセルのことも 揚羽蝶対のむくろの叢に 湖の見え隠れに麦の秋 森の中の鳥制するやほととぎす 朱の魅力さくろく一点草むらに 遠山の夏敷して済州島 カリヨンのお屋を告げる菖蒲園 程好きに頭切られて今年竹 吟じたる歌え若葉風にのり 花菖蒲影に小さき魚の生れ 蓮の花ほのかに動く池の鯉 その昔母と行きしや菖蒲園 遠目より黄色あざや未央柳 街路樹の枝先ゆるさ夏吹柳 溜池の縁に今年もあやめ咲く 誰を待ち姿美し花菖蒲 香りを待たふれに今朝の庭 雨降って青葉勢い増しにけり 霧ヶ峰れんげつじの咲き乱れ ぬ茶茂り畑一面に茶の香り 勉強中ばたをさがし夜釣かな 母の日も無償の愛が我包む 散歩道猫も木陰で夢うつつ ひとりふく青葉の先の梅雨の玉

Pressio 株式会社 プレッシオ 新聞って、水道・ガス・電気に次ぐ4つ目のライフラインだと思おう。 株式会社 プレッシオ http://www.pressio.co.jp

